

文化交流

青少年少女書画使節団・学生相撲大会

青少年少女書画使節団

1998年7月、将来を囑望された青少年少女使節団を本協会が招聘しました。重慶市教育委員会が選抜した、**重慶市青少年書画訪日使節団**が日本の姉妹都市である広島を訪れ、女城高校の学生らと書画交流を行いました。日本の象徴である「富士山」への登山に挑戦しました。



富士山登山記念
(五合目にて)



重慶中学生 王さん（席上揮毫交流会）

日本学生相撲選手団訪中交流

2004年3月12日～16日の日程で、「国際交流基金アジアセンター草の根交流助成事業」として中国・重慶市で**日本体育大学相撲研究室相撲部選手団**（団長・前日本体育大学学長 塔尾武夫氏）が多くの市民の熱烈な歓迎を受け相撲表演しました。このスポーツ交流事業は、当NPO法人亞洲文化交流協合理事長である受川宗央が1992年、西安の陝西省歴史博物館において第1回「日本書画名家展」をスタートさせ、1999年第8回「日本書画名家展」を四川省・重慶博物館で開催したのが縁で実現の運びとなりました。これは、当NPO法人の理事でもある塔尾武夫先生はじめ、日本体育大学相撲研究室・松本茂教授、日本体育大学OB、日本体育大学相撲部選手の皆さんのご協力によるもので、今回の交流事業は国際交流基金アジアセンターの草の根交流助成事業として助成金の交付を受けました。重慶の人々にとって、日本の伝統文化であり国技でもある相撲を目の当たりにすることは非常に珍しいことであり、2日間の間に約5千人の観客を動員し多くの重慶市民に日本の相撲文化を紹介するとともに、大きな相撲選手相手に若い女性や子供たちの飛び入り試合で会場は大いに盛り上がりました。この模様は当地の新聞、テレビで報道され日本の相撲に対する関心の高さをうかがい知ることが出来ました。このように、当協会は文化・スポーツ交流活動を通して中国の人々との相互理解と信頼関係を築きあげるための架橋になればと考えています。



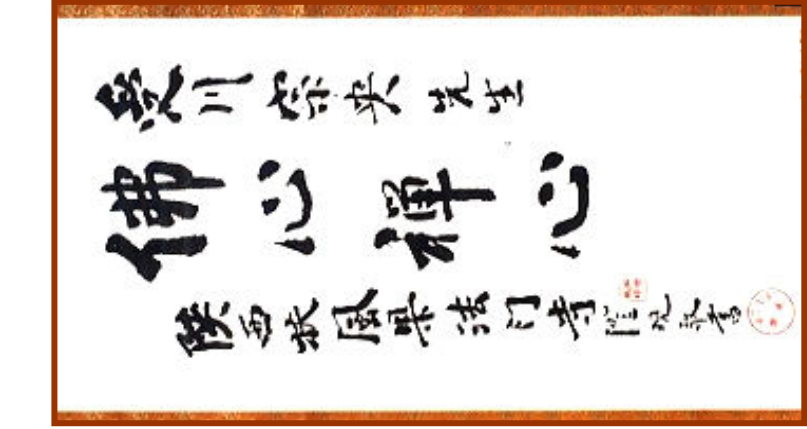
松村茂 塔尾武夫 受川宗央 張朝輝（順時針）

参加者記念写真

現地表演報道（抜粋）

賀詞

中国の著名な法僧、先生方より惠贈



法門寺・澄観法師筆

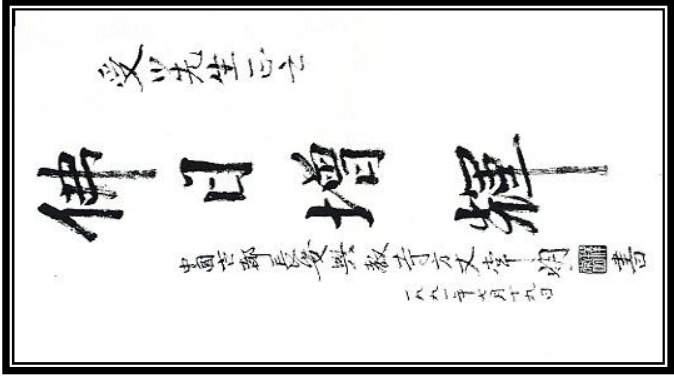


中国仏教協会

趙樸初會長筆

興教寺・中日永遠友好記念碑

建碑題字



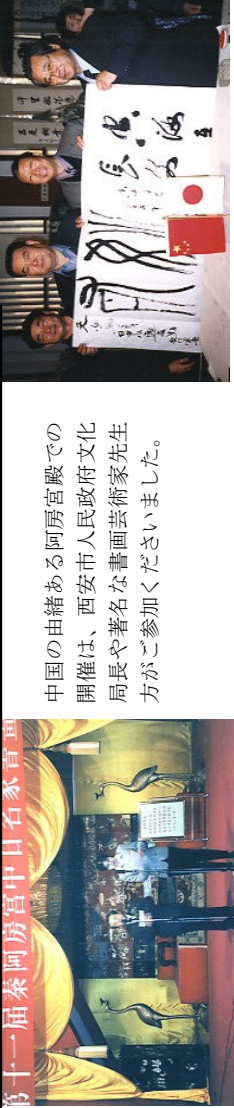
興教寺・常明法師筆

日本書画名家展 中国各都市博物館で毎年開催

第10回 日本書画名家展 北京首都博物館(2001年)



第11回 日本書画名家展 西安・阿房宮(2002年)



中国の由緒ある阿房宮殿での開催は、西安市人民政府文化局長や著名な書画芸術家先生方がご参加くださいました。

第12回 日本書画名家展 内蒙古自治区博物館(2003年)



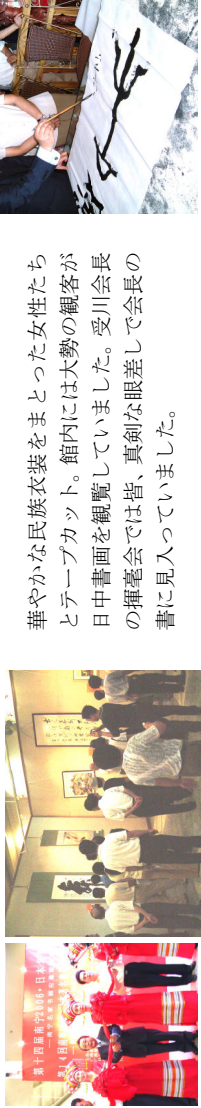
日中平和友好条約締結二十五周年の記念年に、日・中・韓・マカオ各国から参加していただきました。

第13回 日本書画名家展 昆明藤澤友誼館 (2005年)



雲南省人民对外友好協会常務副会長周紅女士へ日中友好の証として書を寄贈しました(右端)。

第14回 日本書画名家展 広西チワン族自治区博物館 (2006年)



華やかな民族衣装をまとった女性たちとテープカット。館内には大勢の観客が日中書画を観覧していました。受川会長の揮毫会では皆、真剣な眼差しで会長の書に見入っていました。

鎌足公の偉業を受け継ぐ『日中永遠友好』記念碑建立

1995年4月12日 建立
日本・奈良県「談山神社」
祭祀 「大織冠 藤原鎌足公」
建碑 亜洲文化交流協会



「日中永遠友好」記念碑文
日本国大臣最高位大織冠内大臣藤原鎌足公は奈良法興寺に於ける蹴鞠会の機縁以来、終生天智天皇補佐の任に徹し、早く中国の制度法式を導入し遂に大化改新の大業を成就、近代法治国家体制の基礎を確立した大功臣である。神霊は奈良県多武峰に奉祀、朝野内外より尊崇敬仰されて今日に及んでいる。鎌足公の長子定慧はつとに入信求道の志厚く若くして渡唐、研鑽を積むに多年、帰朝後、弟不比等と相計り、嘗て中大兄皇子と父鎌足が事を談つたと云う因縁深い多武峰に父の墓を改葬、供養のため中国の様式に倣つて十三重塔を建立し妙楽寺を開基した。
次子不比等は、当時日本国の最高指導者として活躍、中国との文化交流を積極的に計り、その志を継ぐ子々孫々、多く廟堂に立つて国政に預かり、その余慶は永く現代に及んでいる。
本年は恰も日中友好正常化二十周年に当り、改めて鎌足公・定慧公・不比等公父子が嘗て十三百有余年の昔、逸早く中国との文化交流を推進した不滅の偉業に念いを馳せ、日中永遠友好・世界永遠平和への祈りを深く念じてやまぬアジア文化交流会の有志一統が、先に、中国長安興教寺に建碑し、このたび日本奈良県多武峰談山神社の御域をとって同じ記念の碑を建立し、後世永く顕彰するものである。
平成四年九月吉祥日 談山神社第二十代宮司 佐藤宇祐 撰文



除幕式参列者記念撮影



日中永遠友好記念碑

桜花林 日本のシンボルである桜を中国各地に贈樹

日中友好の推進事業として実施しました。
第1回は本協会会長との佛縁により中国・長安「興教寺」境内に桜を贈樹。
この活動を拠点として、第2回、第3回と桜の贈樹が行われました。

第1回 1992年3月 長安・興教寺

興教寺・常明法師と受川会長
興教寺・大雄殿右手に植林し、その中央部に中日永遠友好記念碑建立。関係者らと記念撮影。



第2回 1993年3月 陝西省・陝西歴史博物館

桜花林記念式典にて受川会長と陝西歴史博物館長・陳氏（右側）と植樹の様子。



第3回 1994年3月 河南省・白馬寺



桜花林記念式典にて関係者と記念撮影
白馬寺・海法師（右側）と受川会長
植樹の様子。

日本書画名家展 天皇后訪中記念を第1回展としてスタート

本事業は、日友好・20周年記念・天皇后両陛下ご訪中を記念して、1992年第1回「日本書画名家展」を陝西省・陝西歴史博物館にて開催したのが始まりです。それ以後毎年、日本・中国政府の後援を受け、中国各都市博物館にて開催しております。開催時には、日本から遣中使を派遣し、現地での書画家との交流会にて異文化交流を肌で体験し、日中友好関係を深めています。

第1回 日本書画名家展 陝西省・陝西歴史博物館（1992年）



第1回展開幕式にて受川会長挨拶（国際ギャラリーにて）

天皇・皇后陛下初訪華時
日本書画名家展前をお通りになりました。

第2回(1993年)～第9回(2000年) 日本書画名家展



佛心書心展看板前。
南京博物館にて書家・遣中使らと。
遣中使（学院生舎）らと記念撮影



晋祠博物館の名家展開幕式にて。
受川会長の揮毫会での様子。
重慶市博物館にて記念撮影。

NPO法人 亞洲文化交流協會

理事長 受川 宗央 UKEGAWA SOOH



1991年1月吉日

有史以来、人々はそれぞれの集落の文化を発展させながら大同小異の国家を形成し今日に至っております。

アジアは釈迦生誕 2500 余年が経ちますが、西暦 645 年は天竺を巡り回帰した唐の玄奘僧が佛典の漢訳という大事業に着手された年であります。その後の佛教文化の広域な普及と発展は顕著なものがあります。

日本はこの年「大化の改新」という新しい律令国家体制となり、その功臣は鎌足で、長子定恵が遣唐使に選ばれて唐の都の慧日寺（道因法師）に入住し、三蔵法師玄奘との佛縁などによっての唐文化の導入は我が国の発展に多大な影響を与え、20世紀の今日まで綿々と受け継がれたという史実は顕かであります。

先哲の教智を学び、その偉業に感謝し各人各様の個性を尊重しながら、更なるアジア圏相互の文化交流を通して、新しい世代の繁栄と人類の平和を念願する次第であります。その目的達成のため各国各人が大同して「アジア文化交流協会」(現・NPO法人亜細文化交流協会)を設立する運びとなりました。

老若男女、年齢、国籍などとは不問ゆえに本協会の主旨をご理解いただいた諸賢の御垂教をお願い申し上げます。

NPO法人亜細文化交流会
理事長 受川宗史

受川 宗央 (UKEGAWA SOOH) 簡略

- ◆ 皇坤世界平和推進財団会長
- ◆ NPO法人通訳文化協理長
- ◆ 日本藝術書道院院長
- ◆ 日本教育書道院院長
- ◆ 日本書道師範学院院长
- ◆ 春日総合開発機構会長
- ◆ 亞洲教育書法聯盟會長
- ◆ 鎌足公崇敬會會長
- ◆ 三藏法師玄奘奉贊會會長
- ◆ 長安興教寺名譽監院
- ◆ 南京博物院名譽研究員
- ◆ 河南博物院名譽研究員
- ◆ 王鐸書法館名譽館長
- ◆ 上海師範大學名譽教授
- ◆ 陝西歷史博物館名譽研究員
- ◆ 陝西青年書法家協會名譽主席
- ◆ 西安碑林博物館名譽研究員
- ◆ 桂林市人民對外友好協會高級顧問
- ◆ 桂林市中國書畫藝術協會會長

- 桂平市人民政府特邀顧問
西安東方中·高校名譽校長
廣西對外友好書法家協會名譽會長
北京房山縣·滿名譽鎮長
北京科技學院名譽院長
北京新世紀工業園高級經濟發展顧問
廣西師範大學名譽教授
重慶建築大學名譽教授
重慶市博物館名譽顧問
重慶市書法教育研究會名譽會長
隨州市華仙道文化交流協會名譽會長

NPO法人 亜細文化交流協会とは

当協会は、1991年1月アジア文化交流協会を設立し、翌年に西安、陝西歴史博物館において、「第1回日本書画名家展」を開催、その後毎年中国各都市の博物院・博物館において展覧会を開催し、中国各界より高い評価を得ています。2002年第11回展は、在北京日本大使館の後援を得て、日中友好30周年記念事業に認定され、日中文化交流を重ねてきました。1994年中国・長安の興教寺の境内に、1995年日本・奈良の談山神社の境内に「日中永遠友好」の対碑を建立しました。

また、中国教育学会幹部や青少年書画交流訪日団を招聘等々「日中永遠友好」をめざし、文化、芸術、スポーツ、経済ほか多方面にわたり、より公益的活動を推進してまいりたいと思います。

博 熙

理事	長	受川	宗央	皇神世界平和推進財団	會長	他
理事		塔尾	武夫	前日本体育大學	會長	他
					他理事	5名

日本書畫名家展收藏作家

中国各博物館入

浅井素堂	伊藤三春	稻場武峰	岩田文堂	池村光琳	井村嶺澄	受川宗央	宇津木和子	内谷朱邑
緒方雪竹	小原道城	大森無根	大橋洗風	小川惠玉	河野道彦	糟谷壺天	北川順一	久保観堂
座間井邨	白鳥龍介	新保石水	清水一童	柴田竹童	鈴木天城	杉浦白峰	関根将雄	曾根聖山
高橋成典	高木大宇	高野方春	高山松雨	田中蘆雪	田畑昭典	筑間洞石	角田知可彦	寺師邑侯
富永奇洞	中村紫峰	中谷萩峰	直原玉青	西村銀峯	西川芳泉	西村芝園	西内茜畦	原香陽
花田邑紅	深田仁鏡	藤原清洞	藤山泰子	福澤猷男	星邑風	松下芝堂	松原他人	松田桂翠
松村龍古	三浦ひろみ	宮田記朱	三宅素峰	守時大融	森田尾山	持田勉	森本闌邑	山下圭石
山田太虚	山野象東	八原得安	矢花華笙	柳生虚堂	山田三耀	米田玉泉	好澤溪舟	吉住春水
上田幽峰	児玉三鈴	児玉清城	斎藤鳳葉	佐々木雪城	志賀旦山	清水秀峰	辻本源治郎	津村枕石
長島南龍	中川雨亭	松下牧仙	真嶋雄山	三村秀竹	村松村峰	福成寶山・緑水	植村和堂	奥田峨山
岩間祥霞	岡橋万帆	栗原克実	竹内風聲	中原一輝	三上邑溪	松本良	きただたす	

(敬称略・順不問 2007年10月現在)



一会のあゆみ

- 平成2年(1990) アジア文化交流協会 創立
- 平成3年(1991) 「佛心書心展」 西安碑林博物館にて開催
- 平成4年(1992) 第1回「日本書画名家展」 陝西歴史博物館にて開催
- 平成5年(1993) 第2回「日本書画名家展」 陝西歴史博物館にて開催
- 同5年 日中永遠友好のシンボル「桜花林」を西安興教寺に植樹
その後洛陽「白馬寺」他 古寺名刹に贈樹展開
- 平成6年(1994) 第3回「日本書画名家展」 陝西歴史博物館にて開催
- 同6年 9月 中国興教寺境内に「日中永遠友好」記念碑建立
- 平成7年(1995) 第4回「日本書画名家展」 洛陽博物館にて開催
- 同7年 4月 日本奈良談山神社境内に「日中永遠友好」記念碑（日中対碑）建立
- 平成8年(1996) 第5回「日本書画名家展」 桂林博物館にて開催
- 平成9年(1997) 第6回「日本書画名家展」 南京博物館にて開催
- 平成10年(1998) 第7回「日本書画名家展」 晋祠博物館にて開催
- 平成11年(1999) 第8回「日本書画名家展」 重慶市博物館にて開催
- 平成12年(2000) 第9回「日本書画名家展」 河南博物院にて開催
- 平成12年 亜細教育基金会設立
- 平成13年(2001) 第10回「日本書画名家展」 首都博物館にて開催
- 平成13年 日本中国茶道文化交流協会創立
- 平成13年 中国北京に「日本文化村」創立
- 平成13年 日中民間緑化合作の植樹参加（日本政府百億円拠出基金）
- 平成14年(2002) 第11回「日本書画名家展」 阿房宮にて開催
- 同14年 9月 NPO法人 亜細文化交流協会 認証
- 平成15年(2003) 第12回「日本書画名家展」 内蒙古自治区博物館にて開催
- 平成17年(2005) 第13回「日本書画名家展」 昆明藤澤友誼館にて開催
- 平成18年(2006) 第14回「日本書画名家展」 広西チワン族自治区博物館にて開催
- 平成19年(2007) 皇神世界平和推進財団設立

NPO法人 亜細文化交流協会

事務局 〒216-0006 神奈川県川崎市宮前区宮前平 1-10-12
TEL 044-871-0140 FAX 044-853-0253
http://www.ssoh.info/ E-mail:mail@ssoh.jp

NPO法人 亜細文化交流協会
Asian Cultural Exchange Association

～日中永遠友好の架け橋を築く～



1994年 アジア文化交流協会建立
長安・興教寺境内

題字
中国仏教協会
会長 趙 樸初
撰文 佐藤 宇祐



1995年 アジア文化交流協会建立
奈良・談山神社境内

題字
アジア文化交流協会
会長 受川 宗央
撰文 佐藤 宇祐

人類和平の願いを込めて『中日永遠友好』記念碑建立

1994年9月9日 建立
中国・長安県 興教寺
祭祀 三蔵法師玄奘
建碑 亜洲文化交流協会

中日永遠友好記念碑

表	題字	中日永遠友好
裏	碑文	中日永遠友好二三〇余字の日文趣意

人類和平の願いを込めて、中日永遠友好記念碑を中国・長安県「興教寺」に建立しました。
記念式典では、住職の常明法師、陝西省仏教協会々長ら多くの著名な先生方にご参列いただきました。



前列右より常明法師、陝西省仏教協会々長許力工先生、王巨才先生、受川会長、渡邊副会長、王魏通訳と参列関係者

人事交流 日中書画家、文化人、学生との芸術・文化交流

中国・日本の関係文化による教育を考え、人事交流を通して発展、推進する活動を行っています。毎年、中国先進推薦小学、中学、高校、大學を訪問し、名誉ある評価をいただいております。



国際書法大会参加の日・中・韓の書家の先生方と



重慶建築大學、講演会の記念撮影にて学生らと



中国現代著名画家である
甲斐先生と受川会長



中国西南地区、書法教育研究会参加時



碑林博物館での合同席上揮毫会にて（右側受川会長）



広西師範大学にて受川会長の名誉教授拜命式



中国教育学会指導者らが来日（奈良吳竹墨本店）



西安・私立高校訪問時